

新原製茶 株式会社



主力商品 鹿児島茶

○本社所在地：鹿児島県鹿児島市南栄3-11

○事業概要：茶製造卸売業

○常時使用する従業員：13名
(2026年1月時点)

○現在の売上高：23.3億円
(2026年1月期)

○法人番号：6340001002121

○Web：https://shinbara.co.jp/

企業理念・100億宣言に向けた経営者メッセージ



代表取締役
新原 光太郎

日本一の茶産地に必要とされる加工企業へ

私達が本社を構える鹿児島県は荒茶の生産量日本一。官民一体となり、日本トップクラスの品質や栽培規模を誇る生産者に加え、他県に供給する流通網を誇ります。しかしながら茶を焙煎加工する私共茶加工業者においては、キャバが小さく日本一とはいえない状況です。鹿児島の荒茶を鹿児島で加工し鹿児島茶として商品化し流通させなければブランド化できず、やがて海外産地にシェアを奪われてしまう恐れがあります。私は、この素晴らしい茶文化を持続可能にするためには、日本トップクラスの茶加工業者が地元鹿児島に必要不可欠だと考えました。私は日本一の茶産地に必要とされる100億円製茶加工業者を目指します。

売上高100億円実現の目標と課題

実現目標

2040年の売上高100億円達成に向け、現在、核となっている国内原料卸売事業に粉碎や殺菌、小袋詰加工等の付加価値を商品に加え、海外に供給できる体制を整え事業を展開いたします。更に成長著しい通販事業に小売事業を加え、シナジーを生み出し展開いたします。強い販売先を確保することで安心して茶づくりができる環境を作ります。

課題

- ・海外販売に向いている抹茶・粉末茶の加工施設の不足
- ・大手メーカーが求める品質をつくる為の殺菌機の不足
- ・最終製品にする小袋充填機・異物除去機の不足
- ・生産者・茶加工者の人財不足
- ・海外の主要都市への営業拠点不足
- ・通販・越境ECに特化した人財不足

売上高100億円実現に向けた具体的措置

目指す成長手段

- ・製造部は、機械及び人財に投資を行い、世界品質で安定した製品づくりと規格化をすすめ販売しやすい体制を構築する。
- ・販売営業部を3つの課に分けそれぞれのリソースを担保しながら戦術の実行にあたる。バルク課はお客様データの統合をはかり、誰でも営業できるような体制をつくり安定感のある売上高35億円以上を目指す。直販課は、実店舗と販売店卸、モール販売を含むオンライン販売のミックスを進めシナジーを生み出し売上高30億円以上を目指す。海外事業課は米国・EUを中心に売上高35億円以上を目指す。

実施体制

- ・工場の新設・増設を行う
- ・仕上総合機・焙煎機・粉碎機・殺菌機・金属探知機などの機械投資を行う。
- ・人事考課制度を刷新し、誰でも活躍できる仕組みを作る。
- ・SFAの導入を行い、セールススイートメントを確立する。
- ・各国のECモールへの出店を中心に、越境ECを組み立てる。
- ・新事業として実店舗を構築し、ブランド力向上に努める。
- ・実店舗の展開は、関連会社(株)すずむ商店と連携し進める。

※本宣言は企業自身がその責任において売上高100億円を目指して、自社の取組を進める旨を宣言するものです

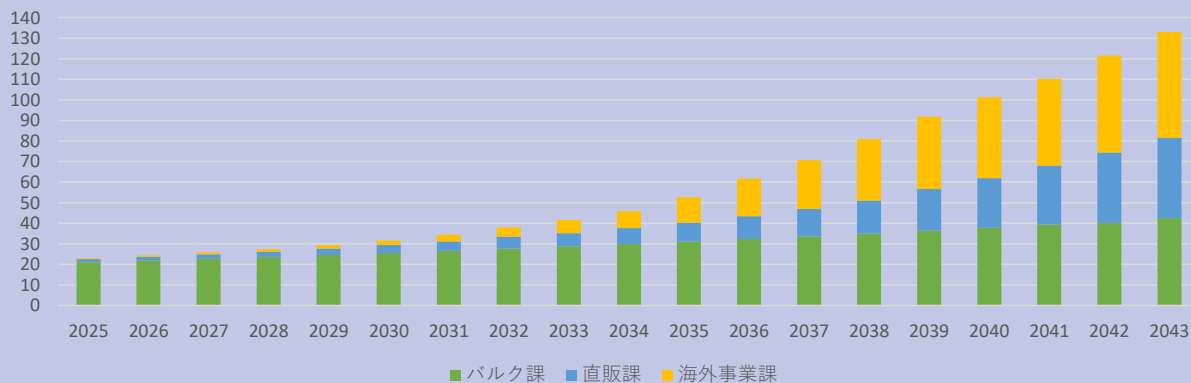
日本一の茶産地に必要な100億円製茶加工業者へ

・長年の消費低迷から日本茶の市場は停滞していたが、世界的な抹茶ブームにより供給が追いつかない状況が続くと予想される。売上高100億円を目指す段階として、2031年までに生産体制の整備により供給を安定させることが大切となると考えます。その理由として、長年の市場停滞によって失われつつある製造技術、職人等のノウハウが急速に失われつつあるという現状があるからです。弊社は、ボトルネックとなりえる、その部分に投資を行うことで、まずは歯止めをかけ、仕上製品や職人の増加を図り、供給の安定化を実施いたします。（工場の新設・増設・焙煎機・粉砕機等の導入。扱える職人への投資）

・2031年以降は、安定化した製造部の原料をもって営業を行い各課が売上を伸ばすフェーズに入ります。この頃には他国での緑茶（抹茶）生産も増加しているはずですが。私たちはそれを想定し、リソースを直販課、海外事業課に集中投資、同時にブランド力の向上にも努めてまいります。尚、ブランド力の向上が伴わなかった場合、同じく新原が代表を務める（株）すすむ商店との連携を強化いたします。M&Aにおいては、販売営業部、製造部にシナジーが認められる場合実施し、売上高目標の実現に努めます。

・日本一の荒茶生産量を誇る鹿児島県。しかしながら世界で戦える製茶加工業者は存在しません。そんな状況では、世界では通用せず、鹿児島県茶業は衰退する可能性があると思っています。私たちが100億円企業を目指すべき大義はそこにあります。大きな売上規模を誇る企業があればライフラインとなり、この日本茶という伝統産業を守っていきけると信じています。

売上目標



私達が創りたい世界

日本茶を通じて、地球と世界の人々を優しさで満たす。

KINDNESS TO EVERYTHING
PEACE FOR ALL.

